

毎日が、散歩の途中
まちの風景

文と絵 岡本杏子



ついこの間までやってたのにと、通りかかった店の前で呆然と立ちすくんでしまうことがある。しばらく寄りななくて悪かったとか、一度入ってみようと思っていたのとか、後悔してもあと祭りの目の前のシャッターは固く閉ざされている。

だから近頃はいいお店だと思つたらなるべく行って、そこでお金を使うようにしている。私が払う金額などたかが知れているが、そうしないといくと、世の中が味気ない安売りチェーン店で埋め尽くされてしまいうさだ。

安い方がいいし、安いのは大好きだが、安いだけのものにはどうも感動がない。これがこの値段だなんて嬉しいわ、というお徳感ほほしいところではあるが、そんなに安くなくとも、つまるところ私が本当にほしいのは「よかつた」という満足感である。買ってよかつた、食べてよかつた、

行ってよかつた、という「よかつた」が大事だ。品物がよかつたり、雰囲気よかつたり、お店の人がよかつたり、「よかつた」の中身は色々あるが、もし「よかつた」を味わわせてくれる貴重なお店に出会ったら、せつせつと通つて自分でお店を守らなさいといけない。今の世の中、個人商店はどこも鳴水掻きで、平穏なようでも水面下では絶えず懸命に足を動かしているはずだ。

行かないと残せない、その筆頭格に銭湯がある。今の家に引越してきたとき、歩いて行ける範囲の銭湯は4軒あったのに今ではたった1軒に減ってしまった。ここ十数年か、自分の好きなまちな風景は守れない気がしている。

「何を子供たちに残したいか」も考えないといけない。そういう小さな積み重ねで、豊かな気持ちになれることを基準にしていきたい。「何に使うか」ということに加えて、財布の中身が乏しいからこそ、大事なお金を使う時には、

だ。そして圧倒的にお年寄りが多い。こんな調子が続けば私に残された最後の「近所の銭湯」も危うい。

家にお風呂があるのだから、なんとしても行かねばならない理由はないが、「買い物から、ひとつぶる」、この樂しみはなんとしても守り抜かねばならない。私にとって銭湯は、日常を旅気分に変えてくれる400円のプチ贅沢だ。

財布の中身が乏しいからこそ、大事なお金を使う時には、

岡本杏子(あまもと きょうこ)
神奈川県生まれ、世田谷区在住のライター。店舗・住居・人物の取材執筆を得意とする。今までに経験した職は安さんや専業主婦、なつぱいと正社員を始めて20を超えるが、ライター業は専ら、は15年。散髪と節約を猫をよなく愛する。一女の母。

特別寄稿
ウラジオストクの北朝鮮人

朝日新聞社 牧野 愛博

3月下旬、1週間ほどロシア極東のウラジオストクに滞在した。9月に開かれるAPEC国際会議を控え、街のあちこちで工事が行われていたが、人々の表情はそれほど明るくない。「生活はちっとも良くならない。工事で儲けるのはモスクワの連中だけだ」とタクシ一運転手。月収は3万ルーブル(約10万円)くらいだという。

街には日本製の中古車があふれる。数年前から中古車の輸入関税が値上がりしたほか、「間もなく右ハンドル車が禁止になる」という噂も流れる。市民の一人は「だ

から、この人々は中央政府が嫌いなんだ」と話す。

不満が次々出る一方、前向きに街を変えていくという覇気はなかなか感じられない。この地域に服飾品や靴など日用雑貨の製造業はほぼ存在しない。市場に行けば、中国から輸入した雑貨品があふれる。「中国製は嫌いだ、中国人がいなければロシア人は裸になるしかない」と、ロシア人女性の売りが吐き捨てる。600万人しかない消費市場の規模の小ささや、ルーラーを嫌うロシア人の性格、マフィアや汚職があふれる社会構

造などが、こうした産業の発展を妨げているのだ、と専門家が解説してくれた。

今、この街に住んでいる人たちのほとんどは、チャンスがあれば海外に脱出したいと考えているという。

絶望するような空気を感ずながら、ある朝、ウラジオ市内の海岸を散歩した。海は遙か遠くまで凍結し、空気は肌を刺すように痛い。海岸沿いに作られた公園に向かうと、朝8時前だというのに、新しい施設を作る工事が始まっていた。

汚れた黒いオーバー風の作業着や耳あて付きの帽子を、セメントの粉で白く汚しながら働いている。日に焼けた顔が、寒さで真っ赤になっていった。そばにそっと立って、彼らの会話に耳をそばだてる。ア

クセントに覚えがある朝鮮語だった。北朝鮮からの派遣労働者であ

町ネタ

東西南北

紙漉図説
絵巻・和紙にみる紙漉工程

開催中(5月27日(日))
紙の博物館(飛鳥山公園)
03(9)16-25220
大人300円

中国で生み出された紙漉きの技術は、朝鮮半島を経て飛鳥時代に日本に伝わりました。平安時代の『延喜式』には、官宮の紙屋の紙漉工程が記されており、古代の製紙技術を

江戸時代、諸藩が産業として紙漉きを奨励するようになり、江戸大坂を中心に流通量が増加したことで、それまで高級品であった紙は、ようやく庶民の手に届くものになりました。この頃、紙漉工程は図解を伴って記録されるようになります。その代表が『紙漉重宝記』(寛政5(1823)年)です。

『紙漉重宝記』は石州半紙の全工程を分かりやすい図説にして解説を加えたものです。石見の紙問屋・国東治兵衛によって著されました。紙漉き技法書としては初めての刊本であり、日本だけでなく、各国語に翻訳されて世界中に広まりました。

今回は『紙漉重宝記』をはじめ、紙の博物館所蔵資料の中から、江戸・明治時代の紙漉絵巻・和紙を中心とした紙漉図説を一挙に公開します。

対話で引き出す学習能力

島田個人指導塾

「教育」education「た子供達は、自我の発達に從って、学校でわからないことや学び方に大きな差が出てくる。その子に固有の問題点を見抜き、必要なことと最適な方法で身につける指導は、言葉を替える必要を認識しながら、効果的に行う必要がある。対象は小学校高学年生(国語・算数・英語)、中学生(国語・数学・英語)、高校生(英語)で、月謝制の場合入会金五千円、1回1時間月4回で小学生一万円、中学生一万二千元、高校生一万五千元と破格の授業料。必要な時だけという場合は、入会金なしで1時間中学生

対話に基づき手づくりの個人授業は、いわば家庭教師の現代版。学習に悩みのある児童・生徒と保護者の方は、まずは無料の体験レッスンで「わかる! 喜び」を実感してみよう。



北・田端1-25-10
田端駅南口より5分
03(57)1-8000
09:00-18:00
午前/午後/夕方
出張教授可
http://www.nettaouita.ne.jp/~huer
1273.prof@ie.him



朝日新聞の大人気連載「しつもん! ドラえもん」ポケットブック 第2弾ができました。

しつもん! ドラえもん ポケットブック 2
キャラクター原作: 藤子・F・不二雄 (文庫本サイズ 発行: 小学館)

「うちゅう」「けいざい」「りょうり」など18のおもしろテーマで「しつもん」と「こたえ」を一問一答形式で掲載しています。「おしえて! 新聞活用法」のコーナーもあります。

©Fujiko-Pro, Shogakukan

定価600円(税込み)
お求めは ASA田端・ASA西ヶ原までお気軽に!
※書店では販売していません。